

反政府が支援を要請

AMDA活動報告

救える命があれば

どういへども

□19□

菅波 茂



インドネシアのジャワ島で七月十七日、津波が発生した。死者六百五十一人、行方不明者九十四人(出典：七月二十七日・UNOCHA)。AMDAは、本部とインドネシア支部編成の医師団十二人を二週間現地に派遣し、救援活動を実施。沖縄支部からは比屋根勉医師が参加した。主な活動は海岸から二―三キロも離れた高台に避難してい

た三千人の被災者の診療だった。二〇〇四年十二月二十六日に発生したスマトラ島沖地震・津波の恐怖が、住民にパニックを起こしていた。国際社会の

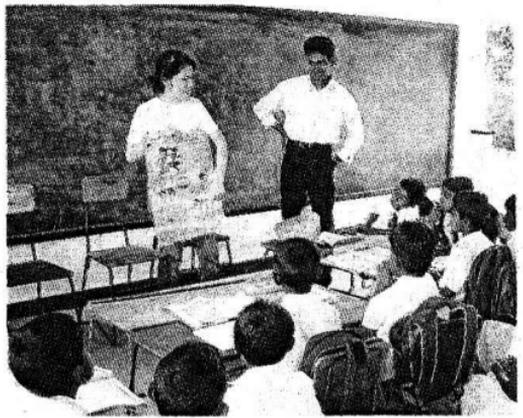
スリランカの医療和平

援助疲れか、活動した村では、海外からの医療チームはAMDAだけだった。以後は本部、カナダ、ニュージーランド、カンボジア支部から編成されたAMDA多国籍医師団の受け入れに大活躍してくれた。

スマトラ島沖地震・津波はインドネシアだけでなく、スリランカにも甚大な被害をもたらした。津波がスリランカを襲った時、中心都市のコロンボにいたAMDAスリランカ支部長のサラスM・サマラゲ医師に何回もメールを送ったが、反応がなかった。「海岸に面した家にいた彼は津波にさらわれて死亡したらしい」との誤報を信じた私は、スリランカ支部抜きで救援活動を始めました。「なぜ私に連絡をしな

いのか」と不信に満ちたメールが本部に入ったのは十二月三十日だった。以後は本部、カナダ、ニュージーランド、カンボジア支部から編成されたAMDA多国籍医師団の受け入れに大活躍してくれた。サマラゲ医師は一九九七年にJICAの業務委託事業としてAMDAが実施した「Local NGO・NPPOキャパシティビルディング」に、セントジョンズアンピユランスのスリランカ支部から参加し、岡山に三週間滞在した。帰国前に、彼からのAMDAスリランカ支部設立の申し

巡回診療評価し信頼築く



スリランカ南部ハンバントタで、医療和平プロジェクトの一環として巡回健康教育を行う (AMDA提供)

に衛生教育を行うことまで要請してきた。経過を説明したい。二〇〇一年一月、日本政府代表(スリランカの平和構築および復旧・復興担当)の明石康氏から私に電話があった。「昨日、コロンボから帰国した。政府と反政府のLTTEが十九年間にわたる内戦を停戦した。日本政府は両者とイスラムの三グループに公平に復興支援をする。そのメッセージを届けるために、それぞれの地域で日の丸の旗を掲げた巡回診療を実施してほしい」

頭の中でひらめいたストーリーがあった。「スリランカ政府保健省にはサマラゲ医師がいる。イスラムグループとはイスラム圏にあるAMDA支部がある。LTTEとの

出喜んで受けた。彼はスリランカ政府保健省の高官で、AMDA支部長の中では唯一の行政官である。小児マヒで不自由な左下肢を持つ彼は、常に弱者に気配りする。口数は少なく、温厚にして誠実な人柄で、承諾した計画を、行政官としての権限を使いながら確実に進めてくれる。

スマトラ島沖地震・津波はスリランカ東北部にあるタミル・イーラム解放の虎(LTTE)支配地域の住民にも甚大な損害を与えた。LTTEは国連機関や各国政府の直接支援を拒否。しかし、AMDAの緊急医療支援を全面的に受け入れた。二次災害を防ぐために支配地域のすべての小学校

この連載は毎月第四日曜日に掲載します。

チャンネルは日本政府が何とかするだろう。同年三月に日本政府が仲介したスリランカ政府とLTTEとの予備会談が箱根のホテルで開かれ、外務省がLTTEの援助受け入れ担当高官を正式に紹介してくれた。その後二年間にわたるLTTE地区を含めて、AMDAからの派遣者が高温多湿の悪環境の中、ないないづくしの住民のために悪戦苦闘した。三地区の巡回診療はサマラゲ医師をはじめとするスリランカ支部の尽力があつての実現である。その結果として得られたのが信頼だった。AMDA(特定非営利活動法人アムタ)理事長